



AG-Stomp

ACOUSTIC GUITAR

PRE-AMPLIFIER

取扱説明書

安全へのこころがけ

火災・感電・人身傷害の危険を防止するには ~以下の指示を必ず守ってください~

絵表示に
ついて

この「安全へのこころがけ」は製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を使って説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、本文をお読みください。



注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為を告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う危険の恐れがある内容を示しています。



この機器を使用する前に以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。



この機器を分解したり、改造したりしないでください。火災、感電の原因となります。



修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていない以外のことは、絶対にしないでください。必ずサービスセンターに相談してください。



次のような場所での使用や保存はしないでください。火災、感電の原因となります。

温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
温度が極端に低い場所
水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
ホコリの多い場所
振動の多い場所
特に自動車内は直射日光などにより非常に高温となります。
この機器を車内に放置しないでください。



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かないでください。火災、感電、故障などの原因となります。



本機は国内仕様です。電源アダプターは必ずAC100Vの電源コンセントに接続して使用してください。エアコンの電源などAC200Vのものがあります。誤って接続すると火災、感電、故障などの原因となります。



付属の電源アダプター(AC-10)以外は使用しないでください。(異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱、発火などの原因となります。)



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、重いものを乗せたり、傷つけたりしないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



この機器を単独で、あるいはヘッドフォン、外部アンプ、外部スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。



この機器に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対に入れないでください。感電や火災の原因になります。



次のような場合は、直ちに電源スイッチを切り電源アダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、サービスセンターに修理を依頼してください。
電源アダプターのコードやプラグが破損した場合
使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合
異物が内部に入ったり、液体がこぼれた場合
機器が雨などで濡れた場合
機器に異常や故障が生じた場合



ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、過度に積み重ねての使用はしないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源アダプターのプラグを抜いておいてください。

注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、財産が損害を受ける危険の恐れがある内容を示しています。



電源プラグを抜くときは、電源アダプターのコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。電源アダプターのコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



タコ足配線はしないでください。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



本機とパワーアンプなどの他の機器とを接続する際は、必ずすべての機器の電源を切った上で行ってください。スピーカーなどの破損や故障の原因となります。



本機の電源を入れる際は、必ずOUTPUTツマミを0にした状態で行ってください。感電または機器の損傷のおそれがあります。



雑音が発生する装置(モーター、調光器など)や消費電力の大きな機器とは別のコンセントをお使いください。



本機の近くにパワーアンプなどの大型トランスを持つ機器がある場合、ハムやうなりが生じることがあります。その場合は、本機との向きや距離を変えてみてください。また、雑音の原因となるネオンや蛍光灯からは十分に離してご使用ください。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しないでください。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じたりテレビ画面に色ムラを生じる場合があります。



本体のお手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かないでください。本体の変色や変質の原因になります。



物をぶつかけたり、落としたりの乱暴な取り扱いや、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えたりしないでください。製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。また、思わぬけがの原因となります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行ってください。コードをいたためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。



電源プラグにホコリが附着している場合は、ホコリをきれいに拭き取ってください。そのままの使用は火災、感電、故障などの原因となります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証は致しかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

このたびは、ヤマハAG-Stompをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品の優れた機能をフルに発揮させると共に、末永くご愛用いただくため、ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後も不明な点が生じた場合に備えて、保証書とともに大切に保管してください。

目次

各部の名称と機能	5	チューナーモード	22
トップパネル	5	ユーティリティモード	23
リアパネル	8	ユーティリティモードについて	23
接続	9	フットスイッチ機能	23
電源の準備	9	MIDI機能	23
ミキサー、アンプとの接続	9	外部コントロール設定	25
ヘッドフォンの接続	10	EXPペダル設定	25
デジタル出力	10	フィードバックリダクションの動作モード	26
EXPペダルの接続	10	エラーメッセージ	27
MIDI機器の接続	10	故障かな?と思ったら	27
AG-Stompを使ってみよう	11	MIDIインプリメンテーションチャート	28
ギターの接続	11	仕様	30
まずは鳴らしてみよう	12	ブランクチャート	31
セッティングを変えてみよう	12	サービスについて	32
パッチを切り替えてみよう	16		
パッチを保存しよう(ストア)	18		
便利な機能	18		
エフェクトの機能とパラメーター	20		
外部コントロールの設定	21		

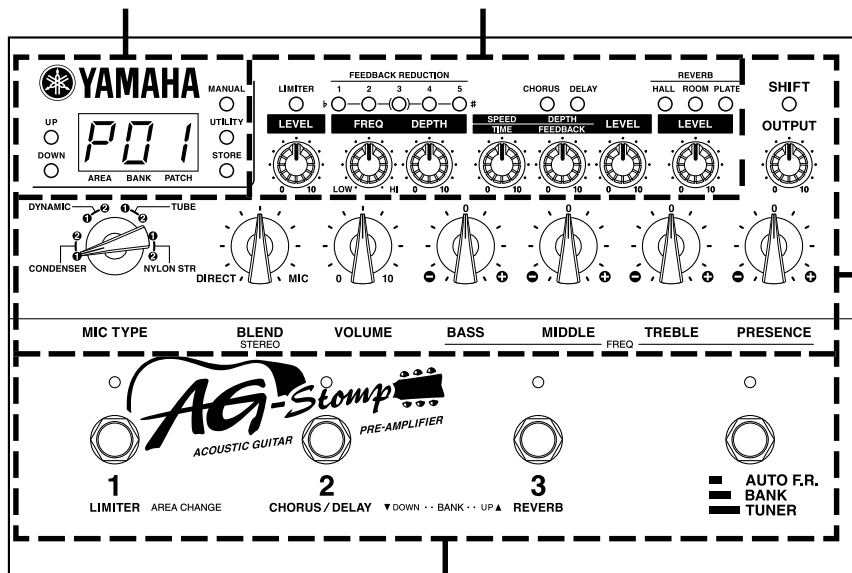
各部の名称と機能

トップパネル

ディスプレイ&メインパート

エフェクトパート

プリアンプパート



フットスイッチパート

ディスプレイ&メインパート



① アップボタン(UP)

② ダウンボタン(DOWN)

パッチ番号を +1 / -1 します。押し続けるとバンク番号を +1 / -1 できます。[UP] と [DOWN] を同時に押すと、ユーザー プリセットのエリア切り替えができます。

また、ツマミの位置とパッチデータの値の関係をランプの点滅で表わします。

③ マニュアルボタン(MANUAL)

選ばれているパッチの設定とは関係なく、現在の各ツマミ位置でのサウンドに切り替わります。パッチの設定を変更するとランプが点滅します。[UTILITY] と同時に押すと、外部コントロールの設定モードに入ります。(21 ページ)

④ ユーティリティボタン(UTILITY)

ユーティリティモードに入ります。(23 ページ) [STORE] と同時に押すと、チューナーモードに入ります。(22 ページ)

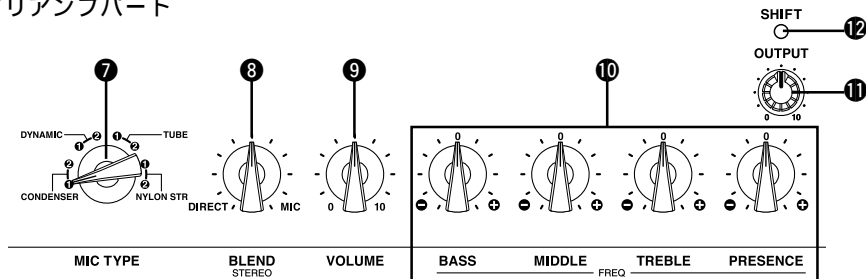
⑤ ストアボタン(STORE)

ストアモードに入ります。(18 ページ)

⑥ ディスプレイ

パッチ番号やパラメーター設定値などを表示します。

プリアンプパート



⑦ マイクタイプ切替スイッチ (MIC TYPE)
マイクシミュレーターのタイプを選びます。
ユーティリティモードでは、フットスイッチの機能やMIDI機能など、設定する項目を選びます。

⑧ ブレンドコントロール (BLEND/STEREO)
ダイレクト音に加えるマイクシミュレーター音の音量バランスを調整します。(14ページ)
シフト状態では、マイクシミュレーターのステレオセッティングを調整します。(14ページ)

⑨ ボリューム (VOLUME)
トーンコントロールで設定されたサウンドの最終的な音量を設定します。

* VOLUMEツマミの設定はメモリーに保存されます。

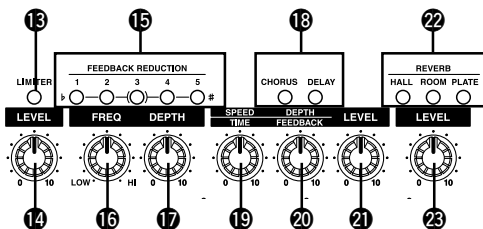
⑩ トーンコントロール
(BASS, MIDDLE, TREBLE, PRESENCE)
それぞれの音域のトーンを設定します。
シフト状態では、各ツマミの調整周波数を設定できます。(13ページ)

⑪ 出力レベルコントロール (OUTPUT)
AG-Stompの出力端子 (OUTPUT, PHONES) から出力する信号のレベルを調整します。

* OUTPUTツマミの設定はメモリーには保存されません。

⑫ シフトボタン (SHIFT)
このボタンを押すとシフト状態になり、マイクシミュレーターのステレオセッティング、各トーンコントロールツマミの調整周波数を設定することができます。(13, 14ページ)

エフェクトパート (参照:『エフェクトの機能とパラメーター』20ページ)



⑬ リミッターボタン (LIMITER)
リミッターのON (点灯) /OFF (消灯) を切り替えます。

⑭ レベルボリューム (LEVEL)
リミッター効果の深さを設定します。
右へ回すほど効果が深くなります。

* 0の位置ではリミッター効果はかかりません。

15 フィードバックリダクションボタン (FEEDBACK REDUCTION 1 ~ 5)

ハウリング(フィードバック)防止のためのノッチフィルターのスィッチです。ノッチフィルターを動作させて、フィードバックが発生している周波数成分を押さえ込み、フィードバックを解消します。ノッチフィルターが動作しているバンドのランプが点灯します。同時に5つまでノッチフィルターをかけることができます。

16 フリクエンシーボリューム(FREQ) フィードバックリダクションのノッチフィルターの周波数を設定します。(15ページ)

17 デプスボリューム(DEPTH) フィードバックリダクションのノッチフィルターの深さ(かかり具合)を設定します。(15ページ)

18 コーラス/ディレイエフェクトボタン (CHORUS/DELAY) コーラスまたはディレイエフェクトを選択するスィッチです。選択されているエフェクトのランプが点灯します。

19 スピード/タイムボリューム(SPEED/TIME) コーラス時: コーラス変化のスピードを設定します。 ディレイ時: ディレイタイムを設定します。

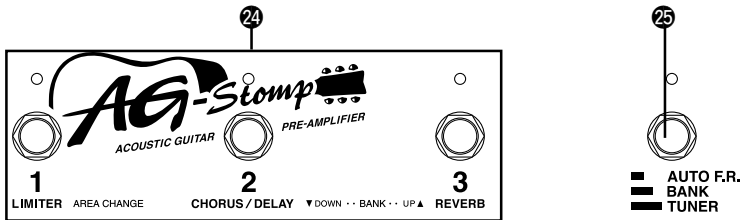
20 デプス/フィードバックボリューム (DEPTH/FEEDBACK) コーラス時: コーラス効果の深さを設定します。 ディレイ時: ディレイの繰り返し回数を設定します。

21 レベルボリューム(LEVEL) コーラス時: コーラス音のレベルを設定します。 ディレイ時: ディレイ音のレベルを設定します。

22 リバースエフェクトボタン (HALL/ROOM/PLATE) リバースエフェクトを選択するスィッチです。選択されているエフェクトのランプが点灯します。

23 リバースボリューム(REVERB) リバースのかかり具合を設定します。

フットスィッチパート



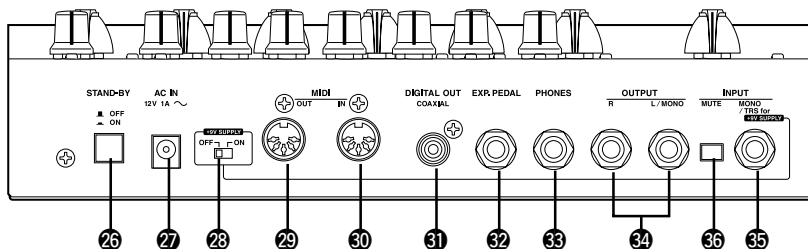
24 フットスィッチ 1, 2, 3 ユーティリティモードでの設定(23ページ)により、次のいずれかの機能で使うことができます。

- ・現在選ばれているバンク内でのパッチ(1/2/3)の切り替え
- ・エフェクトブロックのON/OFF 1: リミッター、2: コーラス/ディレイ、3: リバース)

25 バンクスィッチ(AUTO F.R./BANK/TUNER)

- ・フィードバックが発生している時にスイッチを押す: フィードバックが発生している周波数をAG-Stompが自動的に検出して、ノッチフィルターをかけます。(15ページ)
- ・ディスプレイが点滅するまでスイッチを押し続ける: フットスィッチ1でエリアの切換、2, 3でバンクの選択ができます。(17ページ)
- ・ディスプレイに"t.u"と表示されるまでスイッチを押し続ける: チューナーモードに入ります。(22ページ)

リアパネル



- 26 電源スイッチ (STAND-BY ON/OFF)**
本機の電源スイッチです。

* スピーカーの保護のため、電源のON/OFF切り替えは、OUTPUTツマミ**11**を「0」にしてから行ってください。

- 27 電源アダプター端子 (AC IN 12V 1A)**
付属の電源アダプターをこの端子に接続します。

* 付属の電源アダプター以外は、絶対に接続しないでください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、発火などの原因となります。

- 28 ギター用電源供給スイッチ**
(+9V SUPPLY ON/OFF)

AG-StompのINPUT端子から、付属のTRSフォンケーブルを経由して、エレアコの内蔵アンプへ電源 (DC 9V) を供給するためのスイッチです。(11ページ)

- 29 MIDI OUT端子**

AG-Stompのメモリー内のデータや、コントロールチェンジ、プログラムチェンジなどのMIDIデータを出力する端子です。(23ページ)

- 30 MIDI IN端子**

MIDIフットコントローラー等のMIDI機器の操作で、AG-Stompのパッチを切り替えたり、ボリュームや各種エフェクトのコントロールを行うことができます。(17ページ)
また、外部に保存したメモリー内容を再びAG-Stompのメモリーに読み込むこともできます。(24ページ)

- 31 デジタル出力端子 (DIGITAL OUT)**

AG-Stompの出力をデジタルデータで出力する端子です。デジタルミキサーなど、デジタル入力端子 (COAXIAL) を持つ機器と接続します。(10ページ)

- 32 EXPペダル端子 (EXP. PEDAL)**

ヤマハFC-7などのフットコントローラー (エクスプレッションペダル) 別売 をこの端子に接続して、AG-Stompの各パラメーターをコントロールすることができます。(21, 25ページ)

- 33 ヘッドフォン端子 (PHONES)**

ここにヘッドフォン (別売) を接続すれば、AG-Stompの出力音をモニターしながら練習することができます。(10ページ)

* ヘッドフォンを接続していても、OUTPUT端子**34**、DIGITAL OUT端子**31**からの出力は出ます。

- 34 出力端子 (OUTPUT R, L/MONO)**

AG-Stompのアナログ出力端子 (TRSバランス) です。パワーアンプ + スピーカーセットやギターアンプ、ミキサーなどの入力端子と接続します。市販のPA用TRSフォンケーブルを使用すると、AG-Stompのアナログ出力をTRSバランスで出力することができます。また、付属のTRS-XLRケーブルを接続すると、ミキサーなどのXLR端子にバランス出力することができます。(9ページ)


* モノラルの機器と接続する場合は、L/MONO側端子と接続します。

- 35 入力端子 (INPUT)**

- 36 入力ミュートスイッチ (MUTE)**

AG-Stompの入力端子です。ギターをここに接続します。

付属のTRSフォンケーブルを使用すると、ギターの内蔵プリアンプへAG-Stompから電源を供給することができます。(11ページ)

入力ミュートスイッチを押し込む () と、入力信号が内部回路と遮断されノイズの発生を防ぐことができます。ギターケーブルの抜き差しは、このスイッチを押し込みながら行います。

接続



感電と機器の損傷を防ぐため、AG-Stompの各入出力端子との接続は、必ずAG-Stompおよび各機器の電源を切った状態で行ってください。

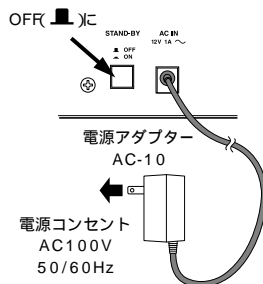
電源の接続

AG-Stompは、付属の専用電源アダプター(AC-10)で動作します。

1. AG-Stompの電源スイッチ(STAND-BY)をOFF()にします。
2. 電源アダプターのプラグをAG-StompのAC IN端子に接続します。
3. 電源アダプターを電源コンセント(AC 100V, 50/60Hz)に接続します。

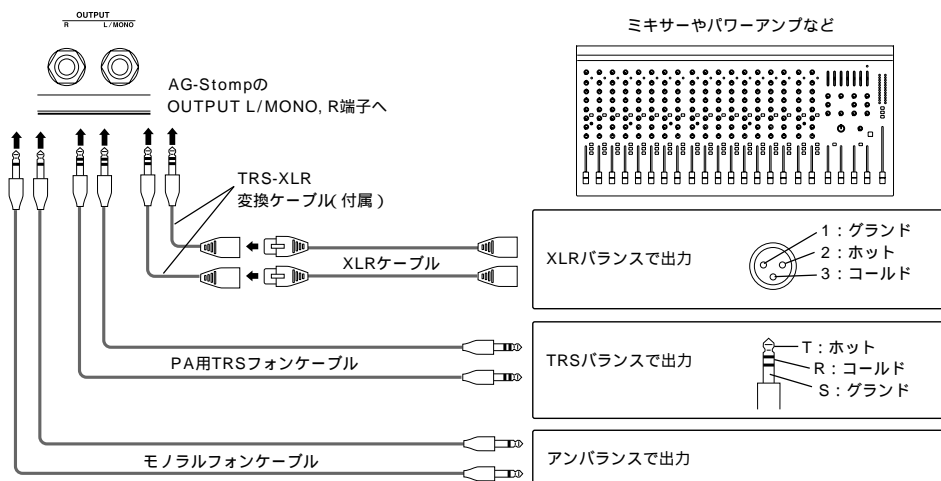


- ・電源アダプターは、必ず付属のAC-10をお使いください。
他の電源アダプターを使用した場合、故障、発熱、発火などの原因となり、大変危険です。
- ・電源は、必ずAC100Vを使用してください。
- ・付属の電源アダプターAC-10は、他の機器に使用しないでください。



ミキサー、アンプとの接続

1. 付属のTRS-XLR変換ケーブルを使うと、AG-Stompの出力(TRSバランス)をXLRバランス出力に変換することができます。
2. 市販のPA用TRSフォンケーブルを使うと、AG-Stompの出力をミキサーやパワーアンプなどにバランスで接続することができます。
3. モノラルフォンケーブルを使った場合は、アンバランス接続となります。

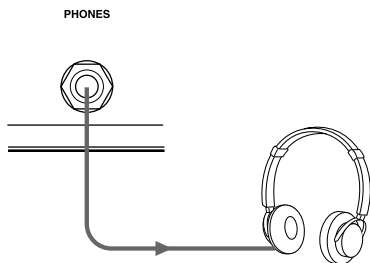


AG-Stompの効果を発揮するために、ステレオでお使いになることをお勧めします。

ヘッドフォンの接続

AG-StompのPHONES端子(ステレオ標準)にヘッドフォンを接続すれば、AG-Stompの出力音をモニターしながら練習することができます。ヘッドフォンの音量はOUTPUTツマミで調節します。

* ヘッドフォンを接続していても、OUTPUT端子、DIGITAL OUT端子からの出力は出ます。

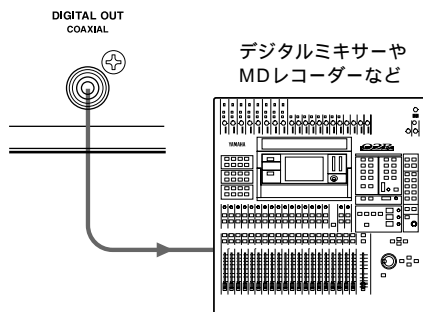


ヘッドフォンをご使用になる場合は、耳をあまり刺激しないよう適度な音量に調節してお楽しみください。

デジタル出力

AG-Stompには、デジタル出力端子(COAXIAL, 44.1 kHz)が装備されていますので、デジタルミキサーやMDレコーダーなどのデジタル入力端子と接続することができます。

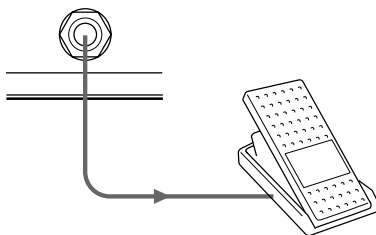
* DIGITAL OUT端子の出力レベルは、OUTPUTツマミでは調整できません(固定)。



EXPペダルの接続

AG-StompのEXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル)を接続すると、AG-Stompの各パラメーターをコントロールすることができます。(21, 25ページ)

EXP. PEDAL



MIDI機器の接続

MIDI IN/OUT端子を使って外部のMIDI機器とMIDI情報のやりとりを行うことができます。

AG-Stompのデータを、ヤマハMIDIデータファイラーMDF3などのMIDI機器に保存(バルクダンプ)したり、またそのデータをAG-Stompへ読み込んだりすることができます。

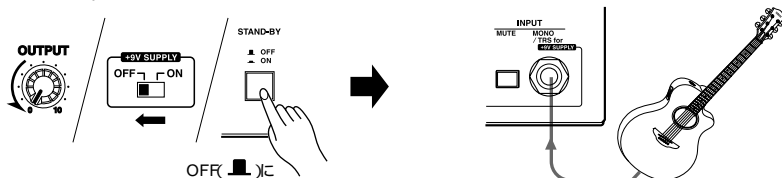
また、MIDIフットコントローラー等の操作で、AG-Stompのパッチの選択、各パラメーターのコントロール、各種エフェクトの設定を行うこともできます。逆に、AG-Stompから外部MIDI機器をコントロールすることもできます。MIDIについての各機能については、『ユーティリティモード』(23ページ)をご覧ください。

AG-Stompを使ってみよう

それでは、AG-Stompにギターを接続して鳴らしてみよう！

ギターの接続

AG-StompのOUTPUTツマミを“0”の位置にし、+9V SUPPLYスイッチを“OFF”、本体の電源を切った状態で、リアパネルのINPUT端子とギターの出力端子とを、市販のギターケーブル(モノラル-モノラル)で接続します。



電源供給機能(下記)を使わない場合は、絶対に付属TRSフォンケーブルを使ってギターとAG-Stompを接続しないでください。TRSフォンケーブルを接続した状態で+9V SUPPLYスイッチを“ON”にすると、エレアコの内蔵アンプに18Vが供給されて故障する可能性があります。また+9V SUPPLYスイッチが“OFF”の状態ではエレアコの内蔵アンプが正しく動作しない場合があります。

電源供給機能

電源供給機能を使う場合は、必ずエレアコの電池をダミー電池と交換してください。006P9V電池を入れたままで電源供給すると、エレアコの内蔵アンプに18Vが供給されて故障する可能性があります。

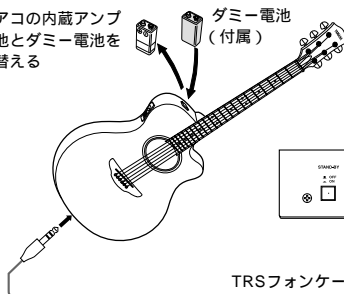
AG-Stompには、接続しているエレクトリックアコースティックギター(以下エレアコ)の内蔵アンプに対して、付属のTRSフォンケーブル経由で電源を供給する機能があります。

お使いのエレアコが以下の条件に合えば、AG-Stompから電源を供給できます。

AG-Stompの電源が入っている間、エレアコに電源が供給されます。

- ・モノラル出力である
- ・内蔵アンプの電源が006P9V電池である
- ・ジャックの抜き差しで内蔵アンプの電源がON/OFFされる
- ・消費電流が10mA以下である

エレアコの内蔵アンプ用電池とダミー電池を入れ替える

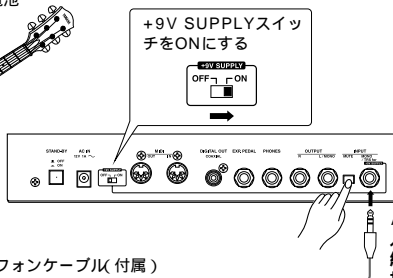


【セッティング】

1. エレアコの内蔵アンプ用電池を、AG-Stompに付属のダミー電池と入れ替えます。
2. AG-StompのOUTPUTツマミを“0”の位置にし、本体の電源を切った状態で、+9V SUPPLYスイッチを“ON”側にします。
3. AG-StompのINPUT端子とエレアコの出力端子とを付属のTRSフォンケーブルで接続します。


- * AG-Stompの電源が入っている状態でのケーブルの抜き差しは、必ずMUTEスイッチを押しながら行ってください。
- * AG-StompのINPUT端子とエレアコの出力端子との間にエフェクターなどを接続しないでください。AG-Stompとエレアコを直接接続しないと電源供給されません。

+9V SUPPLYスイッチをONにする



AG-Stompの電源が入っている状態での接続はMUTEスイッチを押しながら

まずは鳴らしてみよう

1. OUTPUTツマミが 0 の位置であることを確認し、電源スイッチ(STAND-BY)を押し込んでON()にします。

! OUTPUTツマミを上げた状態で電源を入れると、接続しているアンプ、スピーカー、ヘッドホンなどの機器を損傷したり、大音量により耳を痛めた、思わぬ事故を起こしたりする原因となります。

2. ディスプレイに“ P 0 1 ”のように表示されます。



この数字は、(メモリーエリア: P(プリセット) バンク番号: 0、パッチ番号: 1)のパッチプログラムが呼び出されていることを表わしています。

この、ディスプレイにパッチプログラムの番号が表示されている状態をプレイモードと呼びます。プレイモードでは、パッチを選び、ツマミやボタンを切り替えて演奏することができます。

まずは、このパッチプログラムで鳴らしてみよう。

3. ギターを弾いて、OUTPUTツマミを右へ回して音量を調整します。

* 入力信号が大きすぎてAG-Stomp内部で信号がクリップすると、BANKスイッチのランプが点灯します。その場合は、ギターのボリュームを下げるか、AG-StompのVOLUME、各トーンコントロールツマミ、各エフェクトツマミを調整して解消してください。また、フィードバック(ハウリング)による場合は、15ページのフィードバックリダクション機能をお使いください。

セッティングを変えてみよう

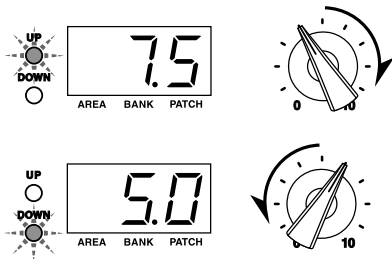
パネルのツマミやボタンを自由に変えて、自分でサウンドを作ってみよう。

ブリアンプのセッティングを変えてみよう

AG-Stompのパネル上の各ツマミ位置は、実際に鳴っているサウンド(パッチで設定されているセッティング)とは必ずしも同じではないので、次のルールに従ってツマミを回してください。

- ・ ツマミを動かしたとき [UP] のランプが点滅したらツマミを右(10 方向)に、[DOWN] のランプが点滅したらツマミを左(0 方向)に回してください。
- このときディスプレイにはパッチに設定されているそのツマミの値(パッチデータ)が点滅表示されます。

* この点滅表示の状態では、ツマミを動かしてもディスプレイ表示、サウンド共に変わりません。



- ・ ツマミを動かして、パッチデータの値の位置に到達すると、ディスプレイ [UP] [DOWN] ランプの点滅は止まり、実際のツマミ位置の値がディスプレイに表示されます。サウンドもツマミ位置に従って変わります。

* ツマミを動かすのをやめてから約2秒間は設定値を表示し、その後、通常表示に戻ります。

* 設定値が1つでも変更されると、[MANUAL] のランプが点滅し、パッチデータが変更されていることを示します。また、OUTPUT以外のすべてのツマミの設定を変えた場合 [MANUAL] のランプは点灯したままになります。

- ・ 一度設定値を変更できる状態になると、そのツマミをどの方向に回しても、ツマミ位置の値がディスプレイとサウンドに反映されます。

このしくみはOUTPUT以外のすべてのツマミで共通です。

マイクタイプセレクトスイッチも同様です。ツマミを回すと、パッチで設定されているマイクシ

ミュレーターのタイプが点滅表示されます。そのマイクシミュレータータイプの位置にツマミを一度合わせてから、設定したいマイクシミュレータータイプに切り替えてください。

OUTPUTツマミとVOLUMEツマミ

どちらのツマミを回しても全体の音量が変わりますが、VOLUMEツマミの設定はパッチデータに含まれ、OUTPUTツマミの設定はパッチデータに含まれません。パッチ個々の音量設定をVOLUMEツマミで行い、スピーカーを鳴らすパワー(音量)をOUTPUTツマミで設定します。

エフェクトのセッティングを変えてみよう
各エフェクトブロックのON/OFFや使用するエフェクトも切り替えてみよう。また、各エフェクトのツマミを回して、エフェクトの効果も調整してみよう。

AG-Stompのエフェクトは、次の3ブロックに分かれています。

- ・リミッター(LIMITER)
 - ・コーラス/ディレイ(CHORUS/DELAY)
 - ・リバーブ(HALL/ROOM/PLATE)
- ・使いたいエフェクトのボタンを押して、選択(ランプ点灯)します。
- ・コーラス/ディレイおよびリバーブでは、ブロック内で同時に1つのエフェクトしか使えません。また、ON(点灯)になっているボタンを押すとOFF(消灯)になり、そのブロックのエフェクトはOFFになります。
- 各ツマミは、そのブロックで選ばれているエフェクトのパラメーターを設定できます。
- * 各エフェクトの機能やツマミの設定については、『エフェクトの機能とパラメーター』(20ページ)をご参照ください。
- * 各エフェクトのツマミの操作ルールはプリアンプの場合と同様です。

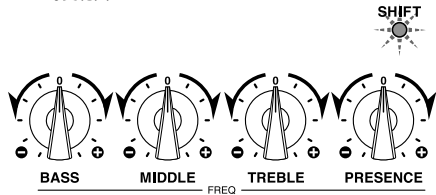
トーンコントロールの中心周波数を設定するには

BASS, MIDDLE, TREBLE, PRESENCEの4つのトーンコントロールは、それぞれ調整する(中心)周波数を設定することができます。

【設定手順】

1. [SHIFT] ボタンを押し、ランプを点滅(シフト状態)させます。
2. 設定したいトーンコントロールのツマミを回し、その中心周波数を調整します。左(反時計方向)で低い方へ、右(時計方向)で高い方へ中心周波数が移動します。

・可変範囲



BASS 50 Hz ~ 400 Hz
MIDDLE 200 Hz ~ 1.6 kHz
TREBLE 600 Hz ~ 4.8 kHz
PRESENCE 2.0 kHz ~ 16 kHz

3. [SHIFT] ボタンを押し、ランプを消灯(シフト状態から抜ける)させます。

- * シフト状態で、ツマミを回さず5秒経過すると、自動的にシフト状態から抜けます。
- * 別紙『パッチリスト』に、アコースティックギターの各フレットでの音名とその基本周波数のリストがあります。トーンコントロールの周波数設定にお役立てください。

トーンコントロールの中心周波数の設定も、パッチデータに含まれます。

AG-Stompを使ってみよう

マイクシミュレーターを設定しよう

マイクシミュレーターは、エレアコのピックアップで拾った音にギターの生音をマイクロフォンで拾ったときのようなライブ感を付加する回路です。ギターのサウンドホールの前にマイクを立てているかのような、エアー感あふれるサウンドが得られます。ミキサーやレコーダーにラインで送る場合や、ヘッドフォンで聴きながら練習する場合に便利です。

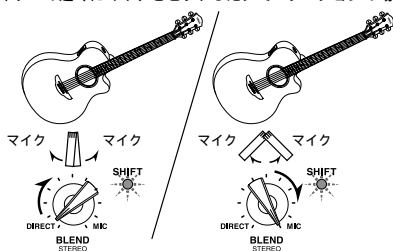
AG-Stompには、下表の8タイプのマイクセッティングのシミュレーター設定がセットされています。それぞれ、2本のマイクを異なる方向に向けてステレオ感を出すというセッティングをシミュレートしています。マイクタイプ切換スイッチでタイプを切り替えて、そのサウンドを試してみましょう。

マイクシミュレーターを通った音(MIC音)とマイクシミュレーターを通る前の音(DIRECT音)との音量バランスは、BLENDツマミで行います。左いっぱいではDIRECT音のみ、右いっぱいではMIC音のみとなります。

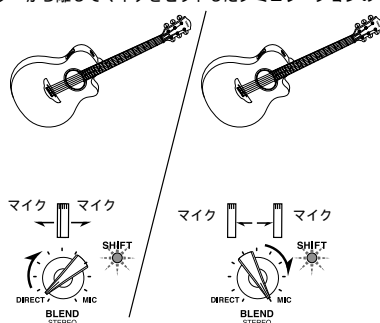
また、[SHIFT] ボタンを押してランプを点滅(シフト状態)させた状態でBLEND(STEREO)ツマミを回すことで、2本のマイクの空間的な広がり感を調整することができます。[SHIFT] ボタンを押してランプを消光させると、シフト状態から抜けます。

* シフト状態で、ツマミを回さず5秒経過すると、自動的にシフト状態から抜けます。

・ ギターの近くにマイクをセットしたシミュレーションの場合



・ ギターから離してマイクをセットしたシミュレーションの場合



マイクタイプ切換 スイッチポジション	ディスプレイ 表示	シミュレート内容
CONDENSER 1	┌ - 1	コンデンサーマイクをギターの近くにセットした状態のシミュレートです。
CONDENSER 2	┌ - 2	コンデンサーマイクをギターから離れた場所にセットし、部屋の響きも拾った状態のシミュレートです。
DYNAMIC 1	d - 1	ダイナミックマイクをギターの近くにセットした状態のシミュレートです。
DYNAMIC 2	d - 2	ダイナミックマイクをギターから離れた場所にセットし、部屋の響きも拾った状態のシミュレートです。
TUBE 1	t - 1	チューブマイクをギターの近くにセットした状態のシミュレートです。
TUBE 2	t - 2	チューブマイクをギターから離れた場所にセットし、部屋の響きも拾った状態のシミュレートです。
NYLON STR 1	n - 1	ナイロン弦ギター用のセッティングです。コンデンサーマイクをギターの近くにセットした状態のシミュレートです。
NYLON STR 2	n - 2	ナイロン弦ギター用のセッティングです。コンデンサーマイクををギターから離れた場所にセットし、部屋の響きも拾った状態のシミュレートです。

* このマイクシミュレーター設定(マイクタイプ切換スイッチ設定)は、パッチデータに含まれます。

* ボリュームおよびトーンコントロールを上げている場合、AG-Stomp内部で信号がクリップしてしまうことがあります。その場合は、ギターのボリュームを下げるか、AG-StompのVOLUME、各トーンコントロールツマミ、各エフェクトツマミを調整して解消してください。また、フィードバック(ハウリング)による場合は、15ページのフィードバックリダクション機能をお使いください。

フィードバックを防止するには

AG-Stompには、フィードバック(ハウリング)を解消するための、フィードバックリダクション機能が装備されています。

この場合のフィードバックとは、ギターアンプから出た音の、“ある周波数”にギターが共振し、発振音が出てしまう(ハウリング)のことを指します。

AG-Stompでは、この原因となる周波数をカットするフィルター(ノッチフィルター)を設定することでフィードバックを解消することができます。フィルターは同時に5つ(1~5)まで設定することができます。

【設定手順】

フィードバックリダクションの設定方法には、次の2つがあります。

オート設定

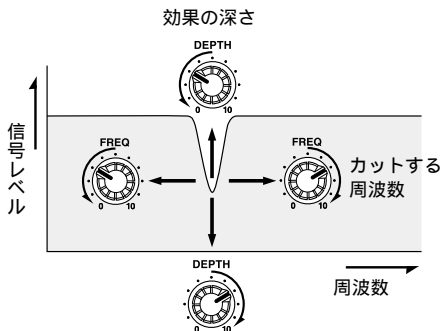
フィードバックが発生したら、BANKスイッチを踏みます。

AG-Stompが自動的にフィードバック周波数を検出し、未使用のフィルターを1つ設定し動作させます。

- * オート設定ではDEPTH設定は最大(ツマミ10: -20dB)に設定されます。
- * コード音など、複数の音が鳴った状態でフィードバックが発生している場合、フィードバックリダクションのオート設定ができないことがあります。その場合は、次のマニュアル設定で行ってください。

マニュアル設定

[FEEDBACK REDUCTION] ボタン1~5のいずれかを押し(ランプ点滅)、FREQツマミでカットする周波数を、DEPTHツマミで効果の深さを設定します。



設定後、そのボタンを押すと効果が確定(ランプ点灯: 動作ON)されます。

現在ON(点灯)になっているバンドをOFF(消灯)にするには、ディスプレイに 'OFF' と表示されるまでそのボタンを押し続けます。

- * フィードバックリダクションの各ツマミの設定については、『エフェクトの機能とパラメーター』(20ページ)をご覧ください。

大音量でフィードバックを起こし続けると、機材を損傷する恐れがあります。ご注意ください。

ユーティリティモードの設定によって、フィードバックリダクションの設定をパッチデータに含める(Patch)ことも、含めずに他のパッチに切り替えても同じ設定/パラメーターで動作させる(Global)こともできます。(26ページ)

またユーティリティモードでGlobalに設定している場合、フィードバックリダクションの設定はパッチデータのストア時に、グローバルデータとして保存されます。したがって、ストアせずに電源を切ると、そのときのフィードバックリダクションの設定は消えてしまいます。

あなたが変更したセッティングは、別のパッチを選ぶと元の状態に戻ってしまいます。セッティング状態を保存しておきたい場合は、18ページのストア操作を行ってください。

パッチを切り替えてみよう

AG-Stompには、全部で60個のパッチプログラム（以下パッチと呼びます）がメモリーされています。この60個のパッチは、2エリア、10バンク、3パッチという構成になっています。

・エリア

ストア操作によりメモリー内容を自由に書き替えできるユーザーエリア（30個）と、設定を変更して使えるがメモリー内容の書き替えはできないプリセットエリア（30個）の2つがあります。

ユーザーエリアが選択されている場合は、ディスプレイの100の位に“U”が表示されます（U01～U93）。

プリセットエリアが選択されている場合は、ディスプレイの100の位に“P”が表示されます（P01～P93）。

* 工場出荷時、プリセットエリアとユーザーエリアには同じパッチデータが入っています。（別紙「パッチリスト」参照）

・バンク

各エリアの30個のパッチは、10のバンク（0～9）に分かれています。

・パッチ

1つのバンクには、3つのパッチ（1～3）が入っています。

さあ、それではパッチを切り替えて、いろいろなサウンドを試してみよう。

パッチの切替には、次の3通りの方法があります。

パネルの[UP][DOWN]ボタンで行う方法

- ・[UP] ボタンを1回押すごとに1つ次のパッチが呼び出されます。

U01 U02 U03 U11 U12
U13.....U91 U92 U93 P01
P02.....P93 U0（元に戻る）..

- [DOWN] ボタンを1回押すごとに1つ前のパッチが呼び出されます。

- ・[UP] ボタンを押し続けると、バンク番号が1ずつ増えます。

U01 U11 U21 U31.....U91
P01 P11.....P91 U0（元に戻る）..

- [DOWN] ボタンを押し続けると、バンク番号が1ずつ減ります。

- ・[UP] ボタンと[DOWN] ボタンを同時に押すと、ユーザーエリア プリセットエリアを切り替えることができます。

U01 P01

・パッチの構成

ユーザーエリア (U01～U93)				
BANK 0	BANK 1	BANK 2	BANK 3	BANK 4
PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1
PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2
PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3
BANK 5	BANK 6	BANK 7	BANK 8	BANK 9
PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1
PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2
PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3

プリセットエリア (P01～P93)				
BANK 0	BANK 1	BANK 2	BANK 3	BANK 4
PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1
PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2
PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3
BANK 5	BANK 6	BANK 7	BANK 8	BANK 9
PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1	PATCH 1
PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2	PATCH 2
PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3	PATCH 3

フットスイッチ、BANKスイッチで行う方法

- フットスイッチ1～3を押すと、現在のバンク内で、押したフットスイッチの数字のパッチ1～3が呼び出されます。

* ユーティリティモードでフットスイッチの機能を“EFF”に設定しているときは、フットスイッチで直接パッチを切り替えることはできません。(23ページ)

- BANKスイッチをしばらく踏んでディスプレイとフットスイッチのランプが点滅した状態(バンクセレクトモード)になったら、スイッチから足を離します。以下、この状態での操作です。

* ユーティリティモードでフットスイッチの機能を“EFF”に設定していても、BANKスイッチを踏んでこのモードには入ることができます。

- フットスイッチ1を押すと、ユーザーエリア(U) プリセットエリア(P)を切り替えることができます。エリアが切り替わると、フットスイッチのランプが点滅します。
- フットスイッチ2を1回押すごとに、バンク番号が1ずつ減ります。
- フットスイッチ3を1回押すごとに、バンク番号が1ずつ増えます。

4. 【フットスイッチの機能＝“PUL”の場合】

BANKスイッチを踏むと、プレイモードに戻ります。パッチ番号は、手順1に入る前の番号になっています。

【フットスイッチの機能＝“EFF”の場合】

BANKスイッチを踏むと、ディスプレイのパッチ番号表示が点滅し、フットスイッチ1～3でパッチ1～3を切り替えることができます。

BANKスイッチを踏むと、選択したエリア/バンク/パッチが選ばれた状態でプレイモードに戻ります。

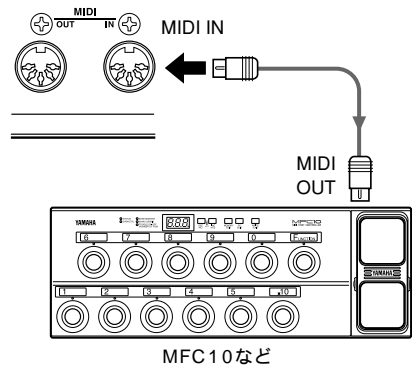
- * エリア/バンク/パッチ選択を中断したい場合は、BANKスイッチを押します。元の状態に戻ります。

MIDIコントロールで行う方法

ヤマハMIDIフットコントローラーMFC10などの外部MIDI機器からMIDIプログラムチェンジを送信することで、AG-Stompのパッチを切り替えることができます。

- AG-StompのMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子とをMIDIケーブルで接続します。

* MIDIケーブルはMIDI規格のものをお使いください。また、MIDIケーブルは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルの使用は、誤動作などトラブルの原因となります。



- AG-StompのMIDI受信チャンネルを外部MIDI機器のMIDI送信チャンネルに合わせます。

24ページ『MIDI受信チャンネルの設定』

- プログラムチェンジテーブル*を作成します。

23ページ『プログラムチェンジテーブルの作成』

* たとえば『プログラムチェンジナンバー 1』を受信したらAG-Stompのパッチナンバー“U13”をリコールする」といったように、受信したプログラムチェンジナンバーに対応させるパッチナンバーを指定する作業です。

* プログラムチェンジNo. : パッチNo.の初期値は、

1 : U01, 2 : U02, 60 : P93, 61 : U01, 120 : P93, 128 : U22。

- 外部MIDI機器からプログラムチェンジデータを送信すると、作成したプログラムチェンジテーブルに従ったパッチが選ばれます。

* プログラムチェンジデータの送信のしかたについては、外部MIDI機器の取扱説明書などをご覧ください。

パッチを保存しよう(ストア)

ユーザーエリア(U01～U93)には、オリジナルのセッティングを保存(ストア)しておくことができます。気に入ったサウンドができたなら、そのセッティングを保存しておきましょう。

保存(ストア)の手順

1. [STORE] ボタンを押します。
ストアモードに入り、ディスプレイに[STORE] ランプ、パッチ番号と同じ番号のフットスイッチのランプが点滅します。
2. スタア先のパッチ(バンク、パッチ番号)を選びます。
パッチの選び方は、『パッチを切り替えてみよう(16ページ)と同様です。[UP][DOWN] ボタンでもフットスイッチ、BANKスイッチでもOKです。ただし、エリアの切り替えはできません(ユーザーエリアに固定)。
3. スタア先のパッチを選んだら、[STORE] ボタンを押し続けます。
すべてのランプが点灯したら、ストア完了です。

* ユーティリティモードの各種設定は、個々のパッチには保存されません。各パッチ共通の設定として、AG-Stomp本体に保存されます。

* OUTPUTツマミの設定は保存されません。バックিংとソノの時の音量差などは、VOLUMEツマミで設定してください。

* ユーザーエリア(U01～U93)のデータは、外部MIDI機器に保存することができます。(24ページ)

* スタア動作中は、MIDIの受信はできません。

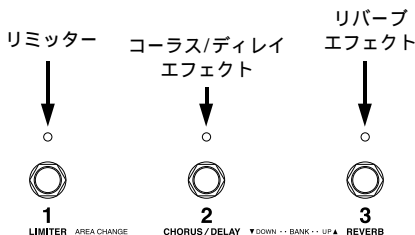
新しいパッチを作ってストアするだけでなく、ライブで使う順番にパッチを並べ替えたりする場合も、このストア操作を行えば便利です。

便利な機能

AG-Stompを使う上で、便利な機能を紹介しましょう。

フットスイッチ1～3でエフェクトのON/OFFを切り替える

フットスイッチ1でリミッターのON/OFF、フットスイッチ2でコーラス/ディレイエフェクトのON/OFF、フットスイッチ3でリバーブエフェクトのON/OFFの切り替えができるように、設定することができます。



1. [UTILITY] ボタンを押し、マイクタイプ切換スイッチをCONDENSER 1の位置にセットします。

ユーティリティモードに入り、ディスプレイに“FS”と表示した後、現在設定されているフットスイッチ機能が表示されます。

- ・ *PLC* : パッチの切り替え
- ・ *EFF* : エフェクトブロックのON/OFF

2. [UP][DOWN] ボタンでフットスイッチ機能を“EFF”に設定します。

3. [UTILITY] ボタンを押すと、プレイモードに戻ります。

4. フットスイッチ1～3を押すと、各エフェクトブロックのON/OFF切り替えができます。

* バンクやエリアを切り替えるには、ディスプレイとフットスイッチのランプが点滅するまでBANKスイッチを踏み続けます。(17ページ)

パッチを使わない使い方

[MANUAL] ボタンは、パッチを使わずにAG-Stompを使うためのスイッチです。

[MANUAL] ボタンを押してマニュアルモードに入る(ランプ点灯)と、すべてのツマミとエフェクトボタン([FEEDBACK REDUCTION] ボタンを除く)が、そのポジションや設定の状態でも機能します。マニュアルモードでは、すべてのツマミ、ボタンをダイレクトに設定できます。

パッチを呼び出すと、マニュアルモードから抜けます。ディスプレイに表示されているパッチ番号のフットスイッチ(1~3)を押せば、マニュアルモードに入る前の状態に戻ります。

また、[SHIFT] ボタンを押してシフトモードに入り、追加パラメーターを変更するとマニュアルモードから抜け、[MANUAL] ランプが点滅する状態になります。

フットペダル(コントローラー)を使う

EXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル※別売)などを接続して、AG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。

21ページ『外部コントロールの設定』

外部MIDI機器でAG-Stompをコントロールする

外部MIDI機器のMIDI OUT端子とAG-StompのMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続して、外部MIDI機器からAG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。

21ページ『外部コントロールの設定』

クロマチックオートチューナー機能

プレイモードで[UTILITY]と[STORE] ボタンを同時に押すか、ディスプレイに"t"が表示されるまで BANKスイッチを押し続けると、チューナーモードになります。チューナーモードでは、クロマチックオートチューナーとして動作します。

22ページ『チューナーモード』

ファクトリープリセットの方法

[UP] と[MANUAL] のボタンを押しながら電源スイッチをON(■)にすると、ファクトリープリセットが実行され、ユーザーエリアの内容はすべて別紙『パッチリスト』の内容に書き換えられます。

ファクトリープリセットを実行すると、あなたがストアしたパッチ内容はすべて消えてしまいます。必要なデータはあらかじめ外部MIDI機器に保存したり、セッティングをメモすることをお勧めします。

エフェクトの機能とパラメーター

リミッター

LIMITER(リミッター)

設定レベル以上の入力信号(ピーク)を抑えるエフェクトです。

- LEVELツマミ
右に回すほどリミッター効果が強くなります。
“0.0”にすると効果はありません。

フィードバックリダクション

特定の周波数付近の信号だけを押さえ込む、ノッチフィルター回路を5つ装備しています。

フィードバック(ハウリング)の原因となっている周波数成分を押さえ込み、フィードバックを解消することができます。

パラメーターを変更するバンドのボタンを押して(ランプ点灯)、フィルターを機能させます。

最大で5つ(5バンド)のノッチフィルターを、同時に動作させることができます。

- FREQツマミ
カットする周波数を設定します。
- DEPTHツマミ
どれくらい信号を押さえ込むかを設定します。
* フィルターのグラフは15ページをご参照ください。

コーラス/ディレイエフェクト

コーラスとディレイの2つのエフェクトがあります。

CHORUS(コーラス)

ピッチを揺らした音を原音に加えることで、サウンドに奥行きと深みを与えるエフェクトです。

- SPEEDツマミ
ピッチを揺らす速さを設定します。
- DEPTHツマミ
ピッチを揺らす深さを設定します。
- LEVELツマミ
原音にミックスするコーラス音の量を設定します。

DELAY(ディレイ)

デジタルディレイエフェクトです。原音を遅らせてくり返します。

- TIMEツマミ
ディレイタイム(原音からディレイ音までの時間)を設定します。
- FEEDBACKツマミ
ディレイ音のくり返し回数を設定します。
* 回しすぎると発振する場合があります。ご注意ください。
- LEVELツマミ
原音にミックスするディレイ音の量を設定します。

リバーブエフェクト

HALL、ROOM、PLATEの3タイプのデジタルリバーブがあります。

HALL(ホールリバーブ)

ホールの響きをシミュレートしたリバーブです。

- REVERBツマミ
リバーブ回路へ送る信号の量を設定します。

ROOM(ルームリバーブ)

室内の自然な響きをシミュレートしたリバーブです。

- REVERBツマミ
リバーブ回路へ送る信号の量を設定します。

PLATE(プレートリバーブ)

鉄板式リバーブをシミュレートしたリバーブです。

- REVERBツマミ
リバーブ回路へ送る信号の量を設定します。
* 同じリバーブタイプで、REVERB=0以外のパッチからREVERB=0のパッチに切り替えた場合、前のパッチのリバーブ成分(残響音)はそのまま残ります。もちろんパッチ切り替え後の音にはリバーブはかかりません。

外部コントロールの設定

EXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル)(別売)などを接続して、AG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。また、同様のコントロールをMIDIコントロールチェンジによっても行うことができます。

* 文中では、[FEEDBACK REDUCTION 1] ボタンを[FR 1] ボタンのように省略して表記します。

設定手順

1. プレイモードで[MANUAL]と[UTILITY] ボタンを同時に押します。

外部コントロール設定モードに入り、ディスプレイに「**Ctrl**」と表示されます。

2. [LIMITER] ボタンを押します。

ディスプレイにはコントロール番号が表示されます。

[UP]/[DOWN] ボタンでコントロール番号を設定します。

AG-Stompでは外部コントロールの設定を8つ(コントロール番号: 1~8)まで記憶しておくことができるので、8種類のコントローラーを使って異なるパラメーターをコントロールしたり、1つのコントローラーで8種類のパラメーターをコントロールするなどできます。

3. [FR 1] ボタンを押します。

ディスプレイにはコントローラーの種類が表示されます。

[UP]/[DOWN] ボタンでコントローラーの種類を設定します。

- **EXP**: EXP. PEDAL端子に接続したフットコントローラーでコントロールする場合。
- **1~3**, **64~95**: MIDI IN端子に接続した外部MIDI機器からのコントロールチェンジでコントロールする場合。そのコントロールチェンジ番号を選びます。(MIDIコントロールチェンジ番号については、外部MIDI機器の取扱説明書をご覧ください。)

4. [FR 2] ボタンを押します。

ディスプレイにはパラメーターの種類が表示されます。

[UP]/[DOWN] ボタンでコントロールするパラメーターを設定します。

- **OFF**: オフ(コントロールしない)
- **BAL**: DIRECT音/MIC音のバランス(BLEND)
- **SE**: 2本のマイクの音像位置(STEREO)
- **PRE**: プリアンプ後段のボリューム

- **RE**: リバース後段のボリューム
- **BAS**: トーンコントロール(BASS)
- **MID**: トーンコントロール(MIDDLE)
- **TRE**: トーンコントロール(TREBLE)
- **PRE**: トーンコントロール(PRESENCE)
- **LEV**: リミッターのLEVEL
- **SPD**: コーラス/ディレイエフェクトの SPEED/TIME
- **DEP**: コーラス/ディレイエフェクトの DEPTH/FEEDBACK
- **LEV**: コーラス/ディレイエフェクトの LEVEL
- **REV**: リバースエフェクトの REVERB

手順3で設定したコントローラーで、このパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。

5. [FR 3] ボタンを押します。

ディスプレイにはパラメーターの可変最小値(コントローラーを最小に設定したときのパラメーターの値)が表示されます。

[UP]/[DOWN] ボタンで値 0.0 ~ 10.0 を設定します。

6. [FR 4] ボタンを押します。

ディスプレイにはパラメーターの可変最大値(コントローラーを最大に設定したときのパラメーターの値)が表示されます。

[UP]/[DOWN] ボタンで値 0.0 ~ 10.0 を設定します。

7. [UTILITY] ボタンを押すと、プレイモードへ戻ります。

この外部コントロール設定は、パッチデータに含まれます。

またユーティリティモードにおいて、パッチデータでの設定に関係なく常にユーティリティモードの外部コントロールをON(有効)、または常に外部コントロールをOFFに設定する機能もあります。(25ページ)

チューナーモード

ギターをチューニングするためのモードです。チューナーモードでは、AG-Stompはクロマチックオートチューナーとして動作します。

チューナーモードへの入り方

以下のどの方法でもチューナーモードに入ることができます。

- ・プレイモードで、[UTILITY]と[STORE]ボタンを同時に押す。
- ・プレイモードで、ディスプレイに“**と**”が表示されるまで BANKスイッチを押し続ける。(バンクセレクトモードの次にチューナーモードになる)
- ・バンクセレクトモードで、ディスプレイに“**と**”が表示されるまで BANKスイッチを押し続ける。



チューナーモードでは、AG-Stompの各出力 (OUTPUT, PHONES, DIGITAL OUT) はミュートされます (音が出ません)。

チューニングの方法

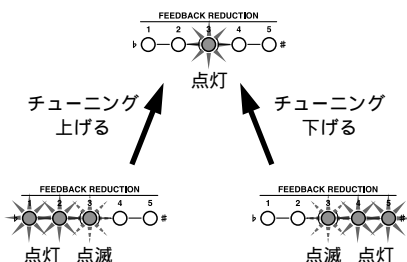
弾いた弦に一番近い音の音名がディスプレイに表示され、その音に対して高いか低いかが5つのランプで表示されます。

1. 基準ピッチを変更する場合は、[UP]/[DOWN]ボタンにより設定します。(“基準ピッチの設定”参照)
2. チューニングしたい弦を弾きます (単音で鳴らします)。
 - ・まず、合わせたい音名がディスプレイに表示されるように、ギターをチューニングします。音名表示は以下の通り。

A	B \flat	B	C	D \flat	D	E \flat	E	F	G \flat	G	A \flat
A	B \flat	B	C	D \flat	D	E \flat	E	F	G \flat	G	A \flat

- ・チューニングが低い場合はFEEDBACK REDUCTIONの1, 2のランプが点灯、3が点滅します。高い場合は4, 5のランプが点灯、3が点滅します。
- 3のランプだけが点灯するように細かくチューニングできたらOKです (このとき、BANKスイッチのランプも点灯します)。

チューニングOK!



3. [UTILITY]ボタンを押すか、BANKスイッチを押すと、プレイモードへ戻ります。

基準ピッチの設定

通常、基準ピッチはA=440Hzに設定されますが、生ピアノなど440Hz以外の基準ピッチでチューニングされている場合もあります。

AG-Stompでは、436Hz～444Hzの範囲で基準ピッチを設定することができます。

1. チューナーモードで[UP]または[DOWN]ボタンを押すと、ディスプレイに基準ピッチが表示されます。

* AG-Stompは電源をONにした際、基準ピッチが440Hzに設定されます。

2. [UP]ボタンを押すごとに1Hzアップ、[DOWN]ボタンを押すごとに1Hzダウンします。

ユーティリティモード

ユーティリティモードでは、フットスイッチやMIDI、外部コントロール、EXP. PEDAL端子などの、AG-Stompのシステム全体に関する設定を行います。

* 文中では、[FEEDBACK REDUCTION 1] ボタンを [FR 1] ボタンのように省略して表記します。

ユーティリティモードについて

プレイモードで [UTILITY] ボタンを押す(ランプ点灯)ことで、ユーティリティモードに入ります。ユーティリティモードで [UTILITY] ボタンを押す(ランプ消灯)と、プレイモードに戻ります。

ユーティリティモードでは、MIDIの受信はできません。MIDI受信による操作はプレイモードで行ってください。

また、ユーティリティモードでの各設定は、ユーティリティモードから抜ける際に保存されます。

ユーティリティモードでは、以下の5つの機能を設定できます。それぞれの機能の切り替えは、マイクタイプ切換スイッチで行います。

- 1: フットスイッチ機能
- 2: MIDI機能
- 3: 外部コントロール設定
- 4: EXPペダル設定
- 5: フィードバックリダクションの動作モード

フットスイッチ機能

[UTILITY] ボタンを押し、マイクタイプ切換スイッチをCONDENSER 1(“ F.S ”と表示)にします。

フットスイッチの機能の切り替え

[LIMITER] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、フットスイッチ1～3の機能を設定します。

- ・ *PrG* : フットスイッチでパッチの切り替えを行います。
- ・ *EFF* : フットスイッチでエフェクトのON/OFFを行います。
 - スイッチ1: リミッター
 - スイッチ2: コーラス/ディレイエフェクト
 - スイッチ3: リバースエフェクト

送信コントロールチェンジNo.

フットスイッチのON/OFF時に送信するMIDIのコントロールチェンジ番号を設定します。(フットスイッチの機能を“ *EFF* ”にした場合にのみ有効)

[FR 1] ボタンを押すと、ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

設定するフットスイッチを押し(ランプ点灯) [UP][DOWN] ボタンで設定します。

・ *oFF* : MIDIを送信しません。

・ *1~32, 64~95* :

送信するコントロールチェンジ番号

スイッチOFF時の送信コントロールチェンジ値
フットスイッチをOFFにした時に送信するMIDIのコントロールチェンジ値を設定します。(フットスイッチの機能を“ *EFF* ”にした場合にのみ有効)

[FR 2] ボタンを押すと、ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

設定するフットスイッチを押し(ランプ点灯) [UP][DOWN] ボタンで設定します。

・ *0~127* : 送信するコントロールチェンジ値

スイッチON時の送信コントロールチェンジ値
フットスイッチをONにした時に送信するMIDIのコントロールチェンジ値を設定します。(フットスイッチの機能を“ *EFF* ”にした場合にのみ有効)

[FR 3] ボタンを押すと、ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

設定するフットスイッチを押し(ランプ点灯) [UP][DOWN] ボタンで設定します。

・ *0~127* : 送信するコントロールチェンジ値

MIDI機能

[UTILITY] ボタンを押し、マイクタイプ切換スイッチをCONDENSER 2(“ *MIDI* ”と表示)にします。

MIDIプログラムチェンジ受信テーブルの作成
受信したMIDIプログラムチェンジNo.(以降PRG No.)に対して、AG-Stompのどのパッチを呼び出すかを設定します。

[LIMITER] ボタンを押して受信MIDI PRG No.を設定します。[UP][DOWN] ボタンで選択します。

・ *1~128* : MIDIプログラムチェンジNo.

ユーティリティモード

[FR 1] ボタンを押してAG-Stompのパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP] [DOWN] ボタンまたはフットスイッチで選択します。

- *U01~U93, P01~P93* :
呼び出すパッチの番号

MIDIプログラムチェンジ送信テーブルの作成
フットスイッチ1~3を押してパッチを呼び出した時に、MIDI OUT端子からMIDIプログラムチェンジ No. を送信して、外部エフェクターなどをコントロールすることができます。

どのパッチを呼び出したときに、何番のMIDI PRG No. を送信するかを設定します。

[FR 2] ボタンを押してAG-Stompのパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP] [DOWN] ボタンまたはフットスイッチで選択します。

- *U01~U93, P01~P93* :
呼び出されたパッチの番号

[FR 3] ボタンを押して送信MIDI PRG No.を設定します。[UP] [DOWN] ボタンで選択します。

- *1~128* : MIDIプログラムチェンジNo.

MIDI受信チャンネルの設定

AG-StompのMIDI受信チャンネルを設定します。ここで設定されたMIDIチャンネルがバルクレシーブ時のデバイスNo.になります。

[FR 4] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、MIDI受信チャンネルを設定します。

- *OFF* : MIDIを受信しません。
- *ALL* : 全チャンネルのMIDIを受信します。
- *1~16* : 受信するMIDIチャンネル

MIDI送信チャンネルの設定

AG-StompのMIDI送信チャンネルを設定します。ここで設定されたMIDIチャンネルがバルクアウト時のデバイスNo.になります。

[FR 5] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、MIDI送信チャンネルを設定します。

- *1~16* : 送信するMIDIチャンネル

MIDIマージのON/OFF設定

AG-StompのMIDI IN端子に入力されたMIDI信号をそのままMIDI OUT端子にも出力するか、出力しないかを設定します。

[CHORUS] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、マージを設定します。

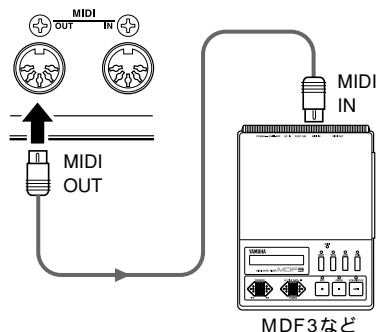
- *on* : MIDI OUTに出力します。
- *off* : MIDI OUTに出力しません。

* マージon時のMIDI OUT出力は、MIDI受信チャンネルの設定とは関係なく出力されます。

MIDIバルクアウトの実行

AG-Stompのユーザーエリアデータおよびユーティリティモードでの設定を、ヤマハMDF3などのMIDIデータを保存できる装置に送信して、バックアップをとることができます。

AG-StompのMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子とを、MIDIケーブルで接続します。



全ユーザーエリアデータ(*U01~U93*) + ユーティリティ設定を、バルクアウトする場合は、[DELAY] ボタンを押し(ディスプレイに"*ALL*"と表示)、[STORE] ボタンを押すとMIDIバルクアウトが実行されます。

ユーザーエリアデータの1つを選んでバルクアウトする場合は、

[HALL] ボタンを押した後、バルクアウトするパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP] [DOWN] ボタンまたはフットスイッチで選択します。

選択後 [STORE] ボタンを押すと1パッチのMIDIバルクアウトが実行されます。

* 送信完了後、パッチ番号選択状態に戻ります。

MIDIバルクインについて

ヤマハMDF3などのMIDI装置にバックアップしておいたデータを、AG-Stompに戻す操作です。

外部MIDI機器のMIDI OUT端子とAG-StompのMIDI IN端子とを、MIDIケーブルで接続します。外部MIDI機器側でバルクアウトを実行すると、AG-Stompはバルクデータを受信します。

* MIDIバルクインは、AG-Stompのプレイモードで行ってください。

MIDIバルクインを実行すると、ユーザーエリアのパッチ内容は書き換えられてしまいます。よくご確認の上で、バルクインを実行してください。

外部コントロール設定

21ページ『外部コントロールの設定』と同様に、EXP. PEDAL端子に接続したフットコントローラー、またはMIDI IN端子に接続したMIDI機器から、AG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーターをコントロールするための設定です。

[UTILITY] ボタンを押し、マイクタイプ切換スイッチをDYNAMIC 1(“ C ”と表示)にします。

外部コントロールの動作モードの設定

[LIMITER] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、外部コントロール設定の動作モードを設定します。

- ・ C : 常にユーティリティモードでの外部コントロール設定が有効になります。
- ・ P : パッチに設定されている外部コントロール設定が有効になります。
- ・ OFF : 常に外部コントロールはOFF。

以下の5つの設定は、上記動作モードが C に設定されている場合のみ設定可能です。

外部コントロール番号の設定

[FR 1] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、コントロール番号(1~8)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(21ページ)参照。

外部コントローラーの設定

[FR 2] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、コントローラーの種類(EP, 1~3, 1, 64~95)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(21ページ)参照。

コントロールするパラメーターの設定

[FR 3] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、コントロールするパラメーター(1~9)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(21ページ)参照。

パラメーターの可変最小値設定

[FR 4] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、パラメーターの可変最小値(コントローラーを最小に設定したときのパラメーターの値: 0.0 ~ 10.0)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(21ページ)参照。

パラメーターの可変最大値設定

[FR 5] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、パラメーターの可変最大値(コントローラーを最大に設定したときのパラメーターの値: 0.0 ~ 10.0)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(21ページ)参照。

EXPペダル設定

外部コントロール設定でコントローラーに“EP” EXPペダルを選択している場合に有効な設定です。

[UTILITY] ボタンを押し、マイクタイプ切換スイッチをDYNAMIC 2(“EP”と表示)にします。

EXPペダル最小値設定

EXPペダルが最小値を示すポジションを設定します。

[LIMITER] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、ポジション(0 ~ 128)を設定します。

[LIMITER] ボタンを押しながらEXPペダルを動かすことでも設定できます。

* 最大値との関係で分解能が128未満には設定できません。

EXPペダル最大値設定

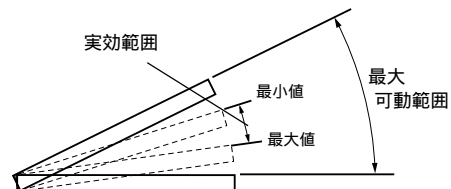
EXPペダルが最大値を示すポジションを設定します。

[FR 1] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、ポジション(127 ~ 255)を設定します。

[FR 1] ボタンを押しながらEXPペダルを動かすことでも設定できます。

* 最小値との関係で分解能が128未満には設定できません。

* EXPペダルスイッチの設定値以上には設定できません。



ユーティリティモード

EXPペダル送信コントロールチェンジNo.
EXPペダル操作時に送信するMIDIのコントロール
チェンジ番号を設定します。

[FR 2] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで設
定します。

- ・OFF : MIDIを送信しません。
- ・1~32, 64~95 :
送信するコントロールチェンジ番号

フィードバックリダクションの 動作モード

[UTILITY] ボタンを押し、マイクタイプ切換ス
イッチをTUBE 1にします。ディスプレイには
“F.F.”と表示された後、現在の設定が表示されま
す。

[UP][DOWN] ボタンで、フィードバックリダク
ションの動作モードを設定します。

- ・G.L.B : パッチを切り替えても、フィードバック
リダクションの設定/パラメーターは変
わりません。(現在の状態のまま)
- ・P.R.G : パッチを切り替えると、フィードバック
リダクションの設定/パラメーターは、
切り替えたパッチに設定されている通り
に機能します。

エラーメッセージ

AG-Stompにエラーが発生した場合、ディスプレイに次のエラーメッセージNo.が表示されます。操作を一時中断し、それぞれの対処方法に従ってください。

E 1 : MIDI受信バッファフル

- 【原因】 受信したMIDIデータがバッファからあふれました。
- 【対処方法】 送信データを減らすか、バルク送信の間隔を開けて再送信してください。

E 2 : 通信エラー

- 【原因】 MIDI通信時に異常が起きました。
- 【対処方法】 接続などの異常がないか確認して、再度送信してください。

E 3 : バルク受信チェックサムエラー

- 【原因】 バルクダンプ受信時にデータのチェックサムが合いません。
- 【対処方法】 接続や送信データを確認して再度送信してください。

E 4 : バルク受信データ異常

- 【原因】 バルクダンプ受信時にデータに異常があります。
- 【対処方法】 接続や送信データを確認して再度送信してください。

故障かな？と思ったら

音が出ない

- 電源アダプターは正しく接続されていますか？
- ギターのボリュームは上がっていますか？
- VOLUMEツマミが 0 になっていませんか？
- OUTPUTツマミが 0 になっていませんか？
- EXPペダルでボリュームをコントロールしている場合は、ペダルを踏み込んでみてください。
- チューナーモードになっていませんか？
- [UTILITY] ボタンまたはBANKスイッチを押してプレイモードに移ってください。
- エレアコにAG-Stompから電源供給している場合：
 - ・ +9V SUPPLYスイッチが「ON」になっていますか？(11ページ)
 - ・ エレアコの電池はダミー電池に交換してありますか？(11ページ)

ツマミを回しても音が変わらない

- ディスプレイの数値が変わるまで、ツマミを回してから設定してください。(12ページ)
- そのツマミのエフェクトはONになっていますか？エフェクトのボタンを押してエフェクトを選んでから、ツマミを回して設定してください。(13ページ)

MIDIの送信ができない

- 受信側の機器との間でMIDIチャンネルが合っていますか？(24ページ)
- MIDIマージがOFFに設定されていませんか？(24ページ)

MIDIの受信ができない

- AG-Stompはプレイモードになっていますか？プレイモードにして、受信をやり直してください。
- 送信側の機器との間でMIDIチャンネルが合っていますか？(24ページ)

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション...	送 信	受 信	備 考
ベシック チャンネル	電源ON時 設定可能範囲 1 - 16 1 - 16	1 - 16, off 1 - 16, off	電源オフ後も記憶可能
モード	電源ON時 メッセージ 代用 1, 3 x *****	1, 3 x x	電源オフ後も記憶可能
ノート ナンバー	x *****	x x	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ x x	x x	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別 x x	x x	
ピッチベンド	x	x	
0 1 - 31 32 - 63 64 - 95 95 - 127 コントロール チェンジ	x o x o x	x o x o x	

プログラム チェンジ	設定可能範囲	0 0 - 1 2 7 *****	0 0 - 1 2 7	
システムエクスクルーシブ		0	0	バルクダンブ
システム コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	x x x	x x x	
システム リアルタイム	クロック コマンド	x x	x x	
AUX	オールサウンドオフ リセットオールコントロール ローカルON/OFF オールノートオフ メッセージアクティブセンシング リセット	x x x x 0 x	x x x x x x	

o : あり
x : なし

モード2 : オムニ・オン、モノ
モード4 : オムニ・オフ、モノ

モード1 : オムニ・オン、ポリ
モード3 : オムニ・オフ、ポリ

仕様

デジタル部

- ・完全デジタルシグナルプロセッシング
- ・マイクシミュレーター：8タイプ
- ・フィードバックリダクション：5バンド
- ・デジタルエフェクト
 - ・リミッター
 - ・デジタルコーラス、デジタルディレイ
 - ・ホールリバーブ、ルームリバーブ、プレートリバーブ
- ・外部コントロール機能(EXP ペダル/ MIDI)：8コントローラー/パラメーター
- ・チューナー機能(クロマチック、オート)

MIDI機能

- 受信 Program Change(Program Change Table 作成可), Control Change, Bulk In
- 送信 Program Change, Control Change, Bulk Out, Merge Out

電源供給機能

ギターの出力がモノラル、消費電流10mA以下のギター内蔵プリアンプ等に対して、TRS フォンケーブル経由で+9Vの電源供給が可能。

コントローラー/スイッチ

トップパネル

プッシュスイッチ×17
UP, DOWN, MANUAL, UTILITY, STORE, LIMITER, FEEDBACK REDUCTION 1~5, CHORUS, DELAY, HALL, ROOM, PLATE, SHIFT

ツマミ×15

MIC TYPE, BLEND, VOLUME, BASS, MIDDLE, TREBLE, PRESENCE, LIMITER LEVEL, FEEDBACK REDUCTION FREQ, FEEDBACK REDUCTION DEPTH, CHORUS SPEED/DELAY TIME, CHORUS DEPTH/DELAY FEEDBACK, CHORUS LEVEL/DELAY LEVEL, REVERB LEVEL, OUTPUT

フットスイッチ×4

1, 2, 3, BANK

リアパネル

STAND-BY ON/OFF, MUTE, +9V SUPPLY ON/OFF

ディスプレイ

7セグメントLED(3ケタ)×1
プッシュスイッチLED×17
フットスイッチ用LED×4

接続端子

INPUT：標準フォンステレオジャック
OUTPUT L/MONO, R：標準フォンステレオジャック(TRS Balance)
PHONES：標準フォンステレオジャック
EXP. PEDAL：標準フォンステレオジャック
DIGITAL OUT：COAXIAL
MIDI IN, MIDI OUT：5 pin DIN

A/Dコンバーター 20ビット

D/Aコンバーター 20ビット

サンプリング周波数 44.1 kHz

メモリー数 プリセット：30
ユーザー：30

入カレベル/インピーダンス
(プリアンプバイパス時)

INPUT：-17dBm/1 M

出力レベル/インピーダンス

OUTPUT L/MONO：Balance +4dBm/600
OUTPUT R：Balance +4dBm/600
PHONES：0dBm/47

電源 専用電源アダプター(AC-10)
入力：AC 100V, 50/60 Hz
出力：AC12V, 1A

消費電力 15 W

寸法 280 (W) × 70 (H) × 184 (D) mm

重量 2.2 kg

付属品 電源アダプター(AC-10)
電源供給用TRSフォンケーブル(3m)
TRS-XLR変換ケーブル(2本)
ダミー電池
取扱説明書(本書)

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブランクチャート

ブランクチャートの使い方

下のブランクチャートをコピーして、パッチのセッティングデータをメモしておきましょう。

パッチ番号

このパッチを使用する曲名やギター、ペダルや外部コントロールの設定などをメモしておこう。

各ツマミのポジション

使用エフェクトに印を付けよう

各パラメーターの値

U01		MEMO Summer Breeze / CPX-8												
AREA BANK PATCH														
MIC TYPE C-2		BLEND		VOLUME		BASS		MIDDLE		TREBLE		PRESENCE		
		5.7		6.2		4.2		2.7		0.0		-2.6		
		STEREO				FREQ		FREQ		FREQ		FREQ		
5.0		84.9				567		4.98		10.1				
LIMITER	FEEDBACK REDUCTION										CHORUS • DELAY			HALL ROOM PLATE
	1	2	3	4	5									
	FREQ	FREQ	FREQ	FREQ	FREQ	SPPED TIME			DEPTH FEEDBACK	LEVEL				
	LEVEL	DEPTH	DEPTH	DEPTH	DEPTH									
4.6	184					3.8			4.4	4.8	6.1			
	-8.7													

また、セッティングをストアする際、次のようなルールでバンクに分けたり、パッチの順番を並べておくと便利です。

- ・使用するギターの違いによりバンクを分ける。(スチール弦ギター/ナイロン弦ギターなど)
- ・マイクシミュレーターのタイプごとにバンクを分ける。(ダイナミック/コンデンサーなど)
- ・サウンドの特徴ごとにバンクを分ける。(コーラス/リバーブ、またはソロ/バックিংなど)
- ・ライブで使用する順番にパッチを並べる。(バンク1は1曲目で使うパッチ1~3、バンク2は2曲目...など)

MEMO

AREA BANK PATCH

MIC TYPE		BLEND		VOLUME		BASS		MIDDLE		TREBLE		PRESENCE		
		STEREO				FREQ		FREQ		FREQ		FREQ		
LIMITER	FEEDBACK REDUCTION										CHORUS • DELAY			HALL ROOM PLATE
	1	2	3	4	5									
	FREQ	FREQ	FREQ	FREQ	FREQ	SPPED TIME			DEPTH FEEDBACK	LEVEL				
	LEVEL	DEPTH	DEPTH	DEPTH	DEPTH									

サービスについて

1. 保証期間

本機の保証期間は、ご購入(保証書による)より満1ヶ年(現金・クレジット・月賦等による区別はございません)。また保証は日本国内でのみ有効と致します。

2. 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。

また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

3. アフターサービス

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。そのほかご不明の点などございましたら、お買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までお問い合わせください。

4. 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合いは、使用環境や使用時間などによって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用頂くためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ、リレー類、入出力ジャック、接続端子など

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町 5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル14号棟A-5F	TEL (03) 5762-2121
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町 2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町 8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087) 822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原 6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	TEL (092) 472-2134

[本社] CSセンター 〒435-0016 浜松市和田町 200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階 TEL (053) 465-1158

ヤマハ株式会社 各営業所 (商品に関する問い合わせ先)

弦打楽器事業部	〒430-8650	浜松市中沢町10番1号	TEL (053) 460-2433
EM営業統轄部			
東京・営業推進課	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL (03) 5488-5476
北海道営業所	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6113
仙台営業所	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	TEL (022) 222-6147
名古屋営業所	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL (052) 201-5199
大阪営業所	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋ブラザビル東館	TEL (06) 6252-5231
九州営業所	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092) 472-2130

住所及び電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

弦打楽器事業部 営業部 ギター・ドラム国内営業課

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号 053-460-2433

0105 R0 Printed in Taiwan